

萩にあしあと残そよ

「特集・長州藩士の那須野が原開拓。」

令和3年(2021)
7月15日発行
-第29号-
発行:大塚好一

「去年入会した史都萩を愛する会(事務局・萩博物館)では、会報誌「新・史都萩」を年三回発行しています。少し前のことになりますが、事務局の人とお会いした際、那須地方を開拓した人々に萩出身者が数名いることを話したところ興味を示されました。そして「採否は理事会に諮ることになりますが、会報誌に寄稿してみませんか?」という提案を受けました。

私自身も那須野が原開拓について学ぶ機会になるし、コロナ禍の中で休業も続いているので、取り組むことにしました。そして、那須野が原博物館から解説書を取り寄せたり、日本遺産ポータルサイトを見たりして、紹介する口調でまとめてみました。

掲載の採否はまだ分かりませんが、まずはこの場で発表します。萩市民になつたつもりで読んでみてください。

◆はじめに
『長州藩士の那須野が原開拓』
『西洋式農場経営への夢』

名に由来しています。「おや?」と思つた方もいらっしゃるでしょう。
今回は、萩から遠く離れた那須野が原で繰り広げられた「明治日本の近代化への挑戦」について取り上げ、萩と那須との知られざる関係をご紹介いたします。

◆那須野が原開拓について
栃木県の北東部、首都東京から北へわずか一五〇kmの那須野が原・平坦で広々としたこの地は、明治期以前は人がほとんど住まない原野が広がっていましたといいます。ここは国内でも最大級の扇状地であり、土砂や火山岩が厚く堆積し、中央部を流れる蛇尾川と熊川は、水が地下に浸透してしまういわゆる水無川となつてゐるためです。広大な原野があつても、水がなくやせた土地で、人々が暮らすのはた

須野が原」と呼ばれる扇状地についてです。この那須野が原には、次のような地名があります。三島・戸田・青木・品川、さらに加治屋・永田・豊浦など。これらは、明治時代にその地域を開墾した人々の氏名や住んでいた場所の地

◆華族と農場経営について
華族は明治二年(一八六九)に作られ、昭和二年(一九四七)の日本国憲法の施行により消滅した特權的上流階級の称号です。かつての公卿と諸侯に加え、明治一七年(一八八四)の「華族令」により明治維新に勲功のあつた人々を組み込み、公爵・侯爵・伯爵・子爵・男爵の序列が作られました。

◆西洋式農場経営とは
明治政府は農業においても華族は、生活の安定や体面を守るため、「華族銀行」といわれた第十五国立銀行への出資や日本鉄道会社の株式の取扱によって、経済基盤を固め

萩藩(長州藩)などが「明治日本の産業革命」つまり工業の近代化に挑戦したように、未開墾地の開拓が行われていたのです。
では、那須野が原開拓に挑んだのはどのような人々だったのでしょうか。もちろん土着の名士らも名を連ねていますが、着目すべきは、明治から太平洋戦争後まで存在した「華族」たちでした。

那須野が原は、約一万一千町歩という広大な原野を有していました。官有地は、関東・東北・北海道に多く存在していました。
北海道や東日本では、農業の近代化(欧米化)を目指して、農場経営の近代化に挑戦したように、未開墾地の開拓が行われていたのです。
今回は、萩から遠く離れた那須野が原で繰り広げられた「明治日本の近代化への挑戦」について取り上げ、萩と那須との知られざる関係をご紹介いたします。

名に由来しています。「おや?」と思つた方もいらっしゃるでしょう。
今回は、萩から遠く離れた那須野が原で繰り広げられた「明治日本の近代化への挑戦」について取り上げ、萩と那須との知られざる関係をご紹介いたします。

を取り入れた混合農業経営、いわゆる大農法による農業の近代化といわれます。

農場主が政府高官という構図の那須野が原の華族農場では、開墾と牧畜、植林を中心とする様々な試みが行われました。彼らには、若き日に留学先で目にした歐州貴族の莊園経営への憧れもあつたのかもしれません。

しかし、荒れた大地の開墾は容易でなく、多くの農場は採算を度外視した農場主の私財投入によりかろうじて維持されていました。また、日本の風土に馴染みにくい大農法は定着せず、小農制へ転換した農場もありました。

◆現在の那須野が原

明治一八年（一八八五）に日本三大疏水のひとつ「那須疏水」の開削が始まりました。

五ヶ月間の工事の末に本幹水路一六・三kmの通水が実現、さらに総延長九六kmに及ぶ分水路や支線が開かれました。かつて不毛の大地と呼ばれていた土地に恵みの水が流れ、後には緑豊かな景色が広がるようになります。

【青木農場】

- ①明治一四年（一八八一）
②青木周蔵（子爵）



青木周蔵・研蔵・周蔵の旧宅。
周蔵は研蔵の養子。

【農場名】

- ①開設年②開設者（爵位）③所有面積④概要⑤農場の痕跡等
※写真は本紙用に萩市内の関連スポットを掲載。



品川弥二郎誕生地は児童公園。

【栃木県の農業産出額】

- 第九位です。そのうち主要農産物である水稻（同八位）や生乳（同二位）などについて

は、那須野が原が一大産地となっています。明治に開墾が始ままり、その後戦後の農地解放により入植した人々の努力が実を結んでいます。

明治一四年（一八八一）当時、開拓地の住人はわずか二五人だったそうです。そこに現在は十万人を超す人々が暮らすようになりました。これほど発展を遂げるとは、当時の人々は想像することさえなかつたでしょう。

◆長州藩士が開いた農場

ここからは、長州藩士（正確には山口県出身者）が開いた農場と、今なお残る痕跡等についてご紹介します。

- ③一五八六町歩
④ドイツ貴族の経営する林間農業を実践し、森林の育成に力を入れました。森林は

赤松は木材として雑木は薪や木炭として販売されました。明治二一年に、農場内に洋風別邸を建設、平成一年に国の重要文化財となりました。

赤松は木材として雑木は薪や木炭として販売されました。明治二一年に、農場内に洋風別邸を建設、平成一年に国の重要文化財となりました。

【品川農場（傘松農場）】

- ①明治一六年（一八八三）
②品川弥二郎（子爵）

③二二六町歩

平田東助（伯爵）

④留学中にドイツの信用組合制度について学んだ二人。

あえて大農法ではなく在来農法を採用し、多くの移住者を呼び寄せる中で、信用組合設立を目指したともいわれています。明治二七年に品川信用組合（後に笠松信用組合）を設立しました。

農場に枝ぶりのよい松がありシンボルとなっていたことから、傘松農場と呼ばれる方が一般的です。

⑤品川台や品川堀などに弥二郎の名が残っています。なお、品川台の一角には品川神社がありこの地を見守っています。また、農場事務所跡にはJAの事務所が建ち、産業組合発祥の地碑や傘松農場碑が歴史を伝えています。



門の跡が残る
山縣有朋誕生地。

【山縣農場】

- ①明治一七年（一八八四）
②山縣有朋（公爵）

③七六二町歩

④農場の立地が山地で起伏が多かったことから、林業を

中心として植林・製炭が行われました。大正一三年に神奈川にあつた別荘を事務所近くに移築しました。この洋館は、平成二年に栃木県有形文化財に指定されています。

⑤山縣農場は現在も存続し、有朋のひ孫の故有信氏の妻睦子氏が代表を務めています。敷地内に建つ別荘は山

※平田東助は米沢藩（山形県）出身で岩倉使節団に同行しました。ロシア留学後、ドイツ留学に変更しました。後に弥二郎の養女達子と結婚しています。

〔萩に関する自由研究〕

『後小畠町内の福聚院』

六月半ばの回覧板に、興味あるプリントがありました。萩博物館から後小畠町内会にてに届いた文書のコピーで、内容は次のとおりでした。

福聚院所藏

借用および展示のお願
—萩七觀音詣奉納額—

本年、萩博物館において特別展「旅と人と萩と」を開催する予定です。この展示のなかでは、信仰の旅・巡礼を大きく取り上げる予定です。この展示内で「萩七觀音詣」についても言及することを検討しています。

福聚院に奉納されている『萩七觀音詣奉納額』は、今からおよそ三三〇年前の元禄六年（一六九三）、「萩七觀音詣」の創始とほとんど時を同じくして作成されました。

一方、福聚院については月に一度、各組回り番で掃除をしているほかに、特に行事は実施していないようで、ほとんど知りませんでした。そこで、図書館の郷土コナーに見つけた「城下町萩の寺と人物・萩市寺院名鑑」を開いて調べてみたところ、次のことことが分かりました。

私が加入している後小畠町内会では、同じ敷地内にある「福聚院」と「三島神社」を管理しています。

三島神社では春と秋に例祭があり、引っ越しして間もない時期に開催された一昨年の五月に、春の例祭に飛び入り参加して、神輿を担がせてもらつた思い出があります。

七ヶ寺を巡ることをいいます。福聚院はそのうちの一ヶ寺（五番札所）とされて多くの巡礼者たちの信仰を集めました。以上の中の理由によつて、貴重な文化財である福聚院所蔵『萩七觀音詣奉納額』を特別展開催期間中、萩博物館にお貸しいただき、展示させていただきましたく存じます。

◆福聚院（ふくじゅいん）



趣きある佇まい

創建は弘仁二年（八一七）
で、本尊は聖観音菩薩。指日
山善福寺（福井県南越前守派）

創建は弘仁二年（八一〇）で、本尊は聖観音菩薩。指日山善福寺（臨済宗南禅寺派）に所属する觀音堂です。



海を見下ろす場所に
建っています。

◆播磨山善福寺について

年間（一四二九～四〇）に指月山の麓に創建された臨済宗の寺院です。慶長九年（一六〇四）に毛利輝元公が萩城を築城するにあたり、現在の場所（川島）に移されました。

萩の五十音については、前号で四四フレーズの紹介を終えましたが、創作のアドバイスを受けた際、高校の恩師から「ん」の句をいただきました。さすが、うまく締めることができました！

ところで、善福寺には天文一九年（一五五〇）の『大内義隆寄進状』が伝えられています。「土地を善福寺へ寄附させるので、早く寺務を始めなさい。」といった、土地の所有権を認めた（安堵）文書で、「萩」という地名が表記されたものとしては現存最古の資料といわれています。



左からアルト・ウィート・
ペーネル・J.B.A.

… 著にあしらふと残そうよ 令和3年(2021)7月15日発行 第29号 発行:太塚好一 …

つに織部燈籠があります。江戸時代初めの茶人古田織部が考案した石燈籠で、竿の部分が角柱状で、上部が分厚い円板状になっています。



キリスト教
籠という説も
あるとか